

まえがき

原 登志彦（北海道大学低温科学研究所）

「北東アジアの人間活動が北太平洋の生物生産に与える影響評価」（略称：アムール・オホーツクプロジェクト）では、アムール川からもたらされる鉄などの養分がオホーツク海の生物生産をどのように規定しているのか、そしてアムール川周辺の森林や湿地などの陸域生態系が流域での政治・経済活動からどのような影響を受け、さらにアムール川の養分動態を介しオホーツク海の生物生産にどのような影響を与えているのか、その実態解明と将来予測を行い、北太平洋の生物生産の悪化を予防するための指針作りを目指しています。

本プロジェクトでは、陸面—河川—海洋の物質循環に対する人間活動の影響を解明することで、北太平洋の生物生産に対する人間活動の影響評価を行いたいと考えています。従って、海洋物理・化学、海洋生態学、水産学、陸水学、植物生態学、氷河学、大気化学、森林経営学、経済学、民族学、政治学など実に多岐にわたる研究分野の研究者が集まり共同研究を進めています。そのためには、我々の研究プロジェクトの最終目標に向けて参加者全員の共通理解が必要不可欠です。これまで、我々のプロジェクトではインキュベーション研究（平成14年度）で4回、FS研究（平成15年度）で3回の研究会を開催し（本報告書巻末の資料参照）、異なる分野の各参加者が研究発表と詳しい質疑応答を行うことにより、この共通理解に向けて努力してきました。異なる分野の研究発表は、研究会の時には何となく理解できたような気分になっても何日かたつとまたわからなくなってしまうというようなことがあります。したがって、異分野の共同研究者の研究内容をいつでも復習できるように、そして常に参加者全員が共通の理解をもてるようにとこの研究会報を発行することにいたしました。この第一号にはこれまでに行った2回の研究会での研究発表の要旨がまとめられています。何度も読み返していただいで共通理解を深めると同時に、異分野から学ぶことによる新たな発見が今後ますます増えてゆくことを期待しています。特に人間と環境の相互作用に関する研究では様々な要素が複雑に関係しあっていますので、このような異分野の相互作用から見えてくる新しい発見が重要だと思います。本研究会報がこのような研究の発展に少しでも寄与できればと願っています。